

平成31年度

島根大学総合理工学部編入学
学 生 募 集 要 項

〔 一 般 入 試 〕
〔 推 薦 入 試 〕

(3年次入学)



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

目 次

1	募集学科及び募集人員	1
2	出願資格	1
	(1) 一般入試	1
	(2) 推薦入試	1
3	出願手続	2
4	入試方法及び日程	3
	(1) 一般入試	3
	(2) 推薦入試	4
5	配点	4
	(1) 一般入試	4
	(2) 推薦入試	4
6	学力試験等の内容及び採点・評価の基準	5
	(1) 一般入試	5
	(2) 推薦入試	6
7	合否判定の基準	6
	(1) 一般入試	6
	(2) 推薦入試	6
8	試験場	7
9	注意事項	7
10	合格者の発表	7
11	障がい等のある入学志願者との事前相談	7
12	入学手続	8
13	授業料	8
14	入試に関する情報提供	8
15	編入学入試実施状況	9
16	個人情報の取扱い	10
17	編入学の時期及び単位認定等	10
18	学生支援制度	10

学 部 案 内

1	学部の内容	12
2	総合理工学部の卒業要件	16

1 募集学科及び募集人員

学 科		募 集 人 員	
		一般入試	推薦入試
物 質 科 学 科	【物理系】	} 12 名	若干名
	【化学系】		
地 球 資 源 環 境 学 科			
数 理 ・ 情 報 シ ス テ ム 学 科	【数理系】		
	【情報系】		若干名
機 械 ・ 電 気 電 子 工 学 科			
建 築 ・ 生 産 設 計 工 学 科		若干名	

- 1 地球資源環境学科，数理・情報システム学科【数理系】及び機械・電気電子工学科は，推薦入試による募集を行いません。
- 2 募集人員は，一般入試と推薦入試を合わせて12名です。
- 3 各学科の詳細については，「学部案内」（12～16 ページ）を参照してください。

2 出 願 資 格

(1) 一般入試

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- ① 大学を卒業した者及び平成31年3月31日までに卒業見込みの者
- ② 短期大学を卒業した者及び平成31年3月31日までに卒業見込みの者
- ③ 高等専門学校を卒業した者及び平成31年3月31日までに卒業見込みの者
- ④ 修業年限4年以上の大学に2年以上在学し，62単位以上修得した者及び平成31年3月31日までに2年以上在学となり，62単位以上修得見込みの者。ただし，本学在学中の者を除く。
- ⑤ 専修学校の専門課程のうち，文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者及び平成31年3月31日までに修了見込みの者（学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第1項に規定する大学入学資格を有する者に限る。）
- ⑥ 高等学校，中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部の専攻科の課程のうち，文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者及び平成31年3月31日までに修了見込みの者（学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第1項に規定する者に限る。）
- ⑦ 外国において，学校教育における14年以上の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。）を修了した者及び平成31年3月31日までに修了見込みの者で，前記①，②，③の各号のいずれかに相当すると認められるもの

【注意事項】

- 1 出願資格⑦により出願を希望する者については，平成30年4月20日（金）までに自然科学系第一課（総合理工学部担当）に照会してください。
- 2 物質科学科（化学系）に出願できる者
現に在学する学校等の所属学科又は卒業した学科が化学か化学関連系に限ります。化学関連系の者は平成30年4月20日（金）までに自然科学系第一課（総合理工学部担当）に照会してください。
- 3 機械・電気電子工学科に出願できる者
現に在学する学校等の所属学科又は卒業した学科が，電気・電子系，機械系，制御系及び情報・通信系のみとします。

(2) 推薦入試

（物質科学科，数理・情報システム学科【情報系】，建築・生産設計工学科）

次の各号のいずれかに該当する者とします。

- ① 高等専門学校を平成31年3月31日までに卒業見込みの者で，在学中の成績が上位に属し，出身学校長が人物及び学力ともに優秀であると認め，責任を持って推薦する者

- ② 短期大学を平成 31 年 3 月 31 日までに卒業見込みの者で、在学中の成績が上位に属し、出身短期大学長が人物及び学力ともに優秀であると認め、責任を持って推薦する者
- ③ 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部の専攻科の課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを平成 31 年 3 月 31 日までに修了見込みの者（学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 90 条第 1 項に規定する者に限る。）で、在学中の成績が上位に属し、出身学校長が人物及び学力ともに優秀であると認め、責任を持って推薦する者
- ④ 高等専門学校、短期大学若しくは大学を卒業した者又は高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部の専攻科の課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者で、企業等に在職する社会人のうち職場の所属長が、人物及び勤務成績ともに優秀であると認め、責任を持って推薦する者

【注意事項】

物質科学科（化学系）に出願できる者

現に在学する学校等の所属学科又は卒業した学科が化学か化学関連系に限ります。化学関連系の者は平成 30 年 4 月 20 日（金）までに自然科学系第一課（総合理工学部担当）に照会してください。

3 出 願 手 続

- ① 出願方法
志願者は、③の書類をとりそろえて出願期間内に**持参又は「書留・速達」郵便**により提出してください。
なお、郵送する場合は、封筒に「総合理工学部編入学願書在中」と朱書きしてください。
- ② 出願期間
平成 30 年 5 月 7 日（月）から 5 月 11 日（金）までの午前 9 時から午後 5 時までとします。
なお、**郵送の場合も 5 月 11 日（金）午後 5 時必着**とします。
- ③ 出願書類

入 学 志 願 票 写 真 票 ・ 受 験 票	本学所定の用紙を使用し、写真 2 枚（入学志願票：1 枚、写真票：1 枚）を貼付したもの。
卒業（修了）証明書又は 卒業（修了）見込証明書	最終学校等の長が発行した卒業（修了）証明書又は在籍する学校等の長が発行する卒業（修了）見込証明書 ただし、 出願資格(1)一般入試の④で出願する者は、在学又は在籍証明書（様式随意） 出願資格(1)一般入試の⑤で出願する者は、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了したことが分かる証明書 出願資格(1)一般入試の⑥又は出願資格(2)推薦入試の③、④で出願する者は、本学所定の用紙を使用し、学校長が発行する証明書
成 績 証 明 書	最終出身学校又は現に在籍する学校等の長が作成した成績証明書で厳封したもの。 ただし、出願資格(1)一般入試の④で出願する者のうち、62 単位修得見込みの者は、修得見込みの科目及び単位数（様式随意）が分かる証明書を添付すること。
推 薦 書 (推 薦 入 試 の み)	本学所定の用紙を使用し、推薦する学校等の長が作成し、厳封したもの。
出 願 承 諾 書 (推 薦 入 試 の み)	本学所定の用紙による出願承諾書 出願資格(2)推薦入試の④で出願する者のみ

<p>入 学 検 定 料 振 込 金 証 明 書</p>	<p>平成 31 年度島根大学「入学検定料」振込依頼書等用紙の所定欄に必要事項を記入し、銀行・信用金庫・農協等の金融機関（ゆうちょ銀行・郵便局を利用される場合は、「通帳及び印鑑」が必要です。現金による振込はできません。）で、取扱期間中（平成 30 年 5 月 1 日（火）～5 月 11 日（金）の窓口取扱時間内（15 時 00 分まで））に同用紙により入学検定料 30,000 円を振り込んでください。〔ATM（現金自動預払機）は使用しないでください。〕振込手続後、窓口で返却された「Ⅲ票 振込金証明書（島根大学提出用）」を同封してください。</p> <p>なお、以下の場合を除き、納入された入学検定料は、いかなる理由があっても返還することができません。</p> <p>① 出願書類等を提出したが、受理されなかった場合 該当者に連絡しますので、所定の期日までに手続を行ってください。</p> <p>② 入学検定料を振り込み後、島根大学に出願しなかった場合</p> <p>③ 入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合</p> <p>上記②又は③に該当した場合は、本人の申し出により納入された入学検定料を返還することができますので、平成 30 年 5 月 18 日（金）までに財務部経理・調達課出納担当（TEL0852-32-6029）（土曜日、日曜日及び祝日を除く午前 9 時から午後 5 時までの間）へ連絡してください。</p> <p>なお、返還の手続を行う際に「Ⅱ票 振込金受取書（志願者保管）」及び「Ⅲ票 振込金証明書（島根大学提出用）」が必要となりますので、大切に保管しておいてください。この用紙がないと振込事実の確認ができず、返還できないことがあります。</p>
<p>返 信 用 封 筒</p>	<p>受験票等を送付する際に使用しますので、長形 3 号 (12cm×23.5cm) の封筒に志願者の郵便番号、住所、氏名を記入し 82 円分の切手を貼付したもの</p>
<p>あ て 名 票</p>	<p>合格通知書及び入学手続書類等を送付する際に使用しますので、すべてに住所、氏名及び郵便番号を記入してください。</p>

④ 提出先

〒690-8504 松江市西川津町 1060

島根大学 学生センター総合理工学部担当 電話 (0852) 32-6835

4 入試方法及び日程

(1) 一般入試

① 入試方法

一般入試は、学力試験等を課し、成績証明書及びその他の書類により総合的に判断します。

② 学力試験等の内容・日程

学力試験等は、次のとおりの内容及び日程により行います。

学 科		平成 30 年 5 月 25 日 (金)		
物 質 科 学 科	【物理系】	口頭試問 (物理, 数学)・面接 9:00～13:00		面接 13:00～
	【化学系】	化学 (筆記試験) 9:00～10:30	英語 (筆記試験) 11:00～12:00	
地 球 資 源 環 境 学 科		地学 (筆記試験) 9:00～10:30	英語 (筆記試験) 11:00～12:00	
数 理 ・ 情 報 シ ス テ ム 学 科	【数理系】	数学 (筆記試験) 9:00～11:00		
	【情報系】	情報科学 (筆記試験) 9:00～11:00		
機 械 ・ 電 気 電 子 工 学 科		数学 (筆記試験) 9:00～11:00		
建 築 ・ 生 産 設 計 工 学 科		小論文 9:00～11:00		

(2) 推薦入試

① 入試方法

推薦入試は、面接、成績証明書及びその他の書類により総合的に判断します。

② 日程

学 科		平成 30 年 5 月 25 日 (金)	
物 質 科 学 科	【物理系】	面接 9:00～	
	【化学系】		面接 13:00～
数 理 ・ 情 報 シ ス テ ム 学 科	【情報系】		
建 築 ・ 生 産 設 計 工 学 科			

5 配 点

(1) 一般入試

学 科		筆記試験	小論文	口頭試問	面接	書類審査	合計
物質科学科	【物理系】	————	————	物理 50 数学 30	20	————	100
	【化学系】	化 学 50 英 語 30	————	————	20	————	100
地球資源環境学科		地 学 40 英 語 40	————	————	20	————	100
数理・情報 システム学 学 科	【数理系】	数 学 80	————	————	20	————	100
	【情報系】	情報科学 50	————	————	25	25	100
機械・電気電子工学科		数 学 50	————	————	25	25	100
建築・生産設計工学科		————	50	————	50	————	100

(2) 推薦入試

学 科		面 接	書 類 審 査	合 計
物 質 科 学 科	【物理系】	60	40	100
	【化学系】	100	————	100
数 理 ・ 情 報 シ ス テ ム 学 科	【情報系】	75	25	100
建 築 ・ 生 産 設 計 工 学 科		100	————	100

6 学力試験等の内容及び採点・評価の基準

(1) 一般入試

学 科	科目等	学力試験等の内容及び採点・評価の基準	
物質科学科	【物理系】 口頭試問 (物理, 数学) ・面 接	各志願者に対して, 3~4名の面接委員で1時間程度の口頭試問・面接を行います。物理及び数学の基礎的内容を問い, 理解力, 論理的思考能力, 学習意欲などを評価します。その際, 成績証明書等の記載内容を参考にします。	
	【化学系】	筆記試験 (化 学)	大学1・2年程度の化学の問題を課し, 理解度及び化学的思考力について評価します。
		筆記試験 (英 語)	大学1・2年程度の英語の問題を課し, 文章の読解力, 理解力, 表現力について評価します。
地球資源環境学科	面 接	各志願者に対して, 3~4名の面接委員で15~20分間行います。化学に関する適性, 理解力, 思考力, 意欲, 好奇心を評価します。また, 成績証明書等の記載内容を評価の参考にします。	
	筆記試験 (地 学)	大学1・2年程度の地学(気象と天文を除く)の記述式問題を課し, 修得度と理解度, さらに科学的思考能力について評価します。	
	筆記試験 (英 語)	大学1・2年程度の英語の記述式問題を課し, 読解力及び表現力について評価します。	
数理・情報システム学科	面 接	各志願者に対して, 数名の面接委員で約10分間行います。志願者の地学(気象・天文を除く)及び関連分野に関する経験・体験と学習意欲, 理解力, 論理的思考能力などを評価します。評価の際, 成績証明書等の記載内容を参考にします。	
	【数理系】	筆記試験 (数 学)	微積分と線形代数に関する記述的問題を課し, 数学的思考力, 表現力, 計算力及び理解度を評価します。
		面 接	各志願者に対して, 3名以上の面接委員で30分間程度行います。数学に対する学習意欲, 思考能力及び適性をみます。評価の際, 成績証明書等の記載内容を参考にします。
	【情報系】	筆記試験 (情報科学)	情報科学の基礎的な内容を問い, 思考力, 計算力, 理解度を評価します。
		面 接	各志願者に対して, 3名以上の面接委員で15分間程度行います。情報科学の内容の理解度, 論理的思考能力, 表現能力, 学習意欲を評価し点数化します。
書類審査	成績証明書等の記載内容を評価します。		
機械・電気電子工学科	筆記試験 (数 学)	大学2年次に相当する数学の内容です。数学に関する基礎学力を評価します。	
	面 接	各志願者に対して, 数名の面接委員で10~15分間行います。電気・電子及び機械分野に対する学習の熱意・適性, 論理的思考能力, 理解力, 表現能力を評価・点数化し, 志願者の得点とします。	
	書類審査	成績証明書等の記載内容を評価します。	
建築・生産設計工学科	小論文	科学的, 論理的思考と文章表現能力を計るために行います。	
	面 接	各志願者に対して, 数名の面接委員で10~15分間行います。各面接委員が, 学修意欲(専門分野に対する熱意), 論理的思考力, 理解力, 適性, 表現能力, 人物, 成績証明書等の記載内容を点数化し, その合計点を志願者の得点とします。	

(2) 推薦入試

学 科		科目等	面接等の内容及び採点・評価の基準
物質科学科	【物理系】	面 接	各志願者に対して、3～4名の面接委員で30分～1時間行います。勉学に対する意欲・科学的好奇心を評価すると共に、物理学の基礎的内容に関する質問を行い、理解力や思考力を評価し、勉学に対する適性を判定します。
		書類審査	成績証明書等の記載内容を評価します。
物質科学科	【化学系】	面 接	各志願者に対して、3～4名の面接委員で20～30分間行います。化学に関する適性、理解力、思考力、意欲、好奇心を評価します。また、成績証明書等の記載内容を評価の参考にします。
		書類審査	成績証明書等の記載内容を評価します。
数理・情報システム学科	【情報系】	面 接	各志願者に対して、3名以上の面接委員で15分間程度行います。情報科学の内容の理解度、論理的思考能力、表現能力、学習意欲を評価し、点数化します。
		書類審査	成績証明書等の記載内容を評価します。
建築・生産設計工学科		面 接	各志願者に対して、数名の面接委員で10～15分間行います。各面接委員が、学修意欲（専門分野に対する熱意）、論理的思考力、理解力、適性、表現能力、人物、成績証明書等の記載内容を点数化し、その合計点を志願者の得点とします。

7 合否判定の基準

(1) 一般入試

学 科		合 否 判 定 の 基 準
物質科学科	【物理系】	総合点の高い順に合格とします。同点の場合は、同順位とします。
	【化学系】	
地球資源環境学科		総合点の高い順に合格とします。同点の場合は、面接の得点の高い者を上位とします。
数理・情報システム学科	【数理系】	総合点の高い順に合格とします。同点の場合は、同順位とします。
	【情報系】	
機械・電気電子工学科		
建築・生産設計工学科		総合点の高い順に合格とします。同点の場合は、面接の得点の高い者を上位とします。

(2) 推薦入試

学 科		合 否 判 定 の 基 準
物質科学科	【物理系】	総合点の高い順に合格とします。同点の場合は、同順位とします。
	【化学系】	
数理・情報システム学科	【情報系】	
	建築・生産設計工学科	

8 試験場

島根大学総合理工学部（松江市西川津町 1060）
巻末の「松江キャンパス案内図」を参照してください。

9 注意事項

- (1) 受験者は、試験当日必ず受験票を持参してください。
- (2) 出願書類等に虚偽の記載があった場合には、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。

10 合格者の発表

- (1) 合格者の発表は、次のとおり行います。

入試区分	日 時
一般入試 推薦入試	平成 30 年 6 月 5 日（火） 午前 11 時

島根大学ホームページの入試情報に合格者の受験番号を掲載します。

URL <http://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>

- (2) 合格者には、合格通知書を送付します。
合格者は、合格通知書に併せて送付する入学確約書に署名、押印のうえ、平成 30 年 6 月 22 日（金）までに自然科学系第一課（総合理工学部担当）へ提出してください。
なお、期日までに提出がない場合は、入学の意志が無く、入学を辞退したものと取り扱います。
- (3) 欠員補充方法
入学者が入学定員に満たなかった場合には、合格者を追加することや第 2 次募集をすることがあります。

【注意事項】

電話、メール等による合否に関する問い合わせには、一切応じません。

11 障がい等のある入学志願者との事前相談

本学部に入学を志願する者で、障がい等（視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、病弱、発達障がい等）があり、受験上及び修学上特別な配慮を必要とする者は、以下により相談してください。

なお、上記以外で健康上の理由から受験又は修学に際して相談される場合は、下記に準じて連絡先までお知らせください。

- (1) 相談の方法

出願受付開始までに本学所定の用紙「島根大学入試受験相談書」（島根大学ホームページからダウンロードしてください。）に医師の診断書又は身体障害者手帳の写を添付し（2）連絡先へ提出してください。必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談を行います。

- ① 氏名、志望学部、学科
- ② 障がいの種類、程度
- ③ 受験上配慮を希望する事項
- ④ 修学上配慮を希望する事項
- ⑤ 出身学校でなされていた配慮
- ⑥ 日常生活の状況

※事前相談の内容によっては、対応に時間を要する場合がありますので、できるだけ早い時期に相談してください。

(2) 連絡先

〒690-8504 松江市西川津町 1060

島根大学自然科学系第一課（総合理工学部担当） 電話 (0852) 32-6835

12 入学手続

入学確約書を提出した者には、入学手続に関する「入学案内」を11月中旬に送付します。

(1) 手続期間

平成30年12月3日（月）～12月7日（金）

(2) 必要経費

入学金 282,000円（予定額）

【注】入学手続時までに入学金の改定が行われた場合には、新たな入学金が適用されます。

13 授業料

(1) 授業料の額（前期分）267,900円（後期分）267,900円〔年額 535,800円〕

【注】入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新たな授業料が適用されます。

(2) 授業料の支払方法

授業料の支払いは、預貯金口座からの「口座振替」を原則としています。

14 入試に関する情報提供

平成31年度入試については、次のとおり公表します。

(1) 合格者成績情報

募集単位ごとに合格者の最高点、最低点及び平均点を本学のホームページにより、平成31年5月以降に公表します。ただし、募集単位で合格者が10人に満たないなど、公表すると個人が特定できるような場合は公表しません。また、募集単位とは入試区分、すなわち物質科学科【物理系】、物質科学科【化学系】、地球資源環境学科、数理・情報システム学科【数理系】、数理・情報システム学科【情報系】、機械・電気電子工学科及び建築・生産設計工学科です。

(2) 試験問題

入試問題の閲覧希望に応えるために、出題した試験問題を本学ホームページに、平成31年5月以降に掲載します。ただし、著作権の関係で問題の一部を掲載できない場合があります。

なお、平成30年度入試で出題した試験問題については、本学ホームページに平成30年5月以降に掲載します。ただし、著作権の関係で問題の一部を掲載していないものがあります。

(3) 出題意図

出題した試験問題の出題意図を本学ホームページにより、平成31年5月以降に公表します。

(4) 申請により本人に提供する情報

受験者のうち、本人からの申請により試験成績の提供を希望する者には、科目ごとの得点及び総合順位（ランク区分）を通知します。

○申請時必要書類

- 1 入試情報提供申請書（次のいずれかの方法により取り寄せてください。）
 - ① 島根大学ホームページから印刷して使用
 - ② 教育・学生支援部 入試企画課を直接訪問
 - ③ 郵送の場合は、返信用封筒（長形3号〔12cm×23.5cm〕に82円切手を貼ったもの）と「入試情報提供申請書請求」と明記したメモを添えて教育・学生支援部 入試企画課へ申し込む
- 2 島根大学受験票
 受験票は正本のみとし、写しは不可とする。なお、提供通知の際に返却します。
- 3 返信用封筒（長形3号〔12cm×23.5cm〕）
 封筒には、必ず申請者本人の住所、氏名を明記し、簡易書留分の切手（402円）を貼ってください。

○注意事項

- 1 申請は、来学（教育・学生支援部 入試企画課）又は郵送のいずれかの方法とします。
- 2 申請期間は、平成31年5月1日（水）から5月31日（金）までとします。ただし、土曜、日曜及び祝日を除きます。
- 3 申請書の記入は、必ず本人が自書してください。
- 4 入試情報提供の通知は、郵送により行います。
 なお、通知書の発送は、申請書の提出後1ヶ月程度を要します。
- 5 ランク区分は、上位から10名単位を1ランクとして表記します。

15 編入学入試実施状況

(1) 平成30年度 一般入試

学科・系		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
物質科学科	物理系	12	0	—	—	—
	化学系		1	1	1	1
地球資源環境学科			1	1	1	0
数理・情報システム学科	数理系		3	3	1	1
	情報系		4	4	2	2
機械・電気電子工学科			9	9	6	3
建築・生産設計工学科			6	6	5	5
計		12	24	24	16	12

(2) 平成30年度 推薦入試

学科・系		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
物質科学科	物理系	若干名	0	—	—	—
	化学系		1	1	1	1
地球資源環境学科			/	/	/	/
数理・情報システム学科	数理系		/	/	/	/
	情報系		2	2	1	1
機械・電気電子工学科			/	/	/	/
建築・生産設計工学科			1	1	1	1
計		若干名	4	4	3	3

※ 地球資源環境学科、数理・情報システム学科【数理系】及び機械・電気電子工学科は、推薦入試による募集を行いません。

16 個人情報の取扱い

入学志願者・受験者の個人情報については、次のとおり取り扱います。

出願書類等に記載された個人情報（氏名、生年月日、性別その他の個人情報等）は、入試及び合格通知並びに入学手続きを行うために利用します。

また同個人情報は、合格者の入学後の教務関係（学籍、修学指導等）、学生支援関係（健康管理、奨学金申請等）、授業料等に関する業務及び調査・研究（入試の改善や志望動向の調査・分析等）を行う目的をもって本学が管理します。他の目的での利用及び本学の関係教職員以外への提供は行いません。

島根大学における個人情報の取扱いについては下記のURLをご参照ください。

http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/information/personal_data/personal_data02.html

17 編入学の時期及び単位認定等

(1) 編入学の時期 平成31年4月

(2) 第3年次に編入学した者の修業年限は2年で、在学できる年限は4年となっています。

(3) 入学前に修得した単位の認定

第3年次に編入学した者が入学前に修得した単位は、次の基準により、本学部の卒業要件単位として認定します。詳細については、入学確約書を提出した者に対して、別途通知します。

① 全学共通教育科目

・数理・情報システム学科（数理系）、建築・生産設計工学科（材料工学コース）

基礎科目、教養育成科目、及び自由選択Ⅰとして修得すべき最低修得単位数31～36単位（学科により修得すべき単位数が異なる。）については本学部で修得したものとして、一括認定します。

・物質科学科（物理系、化学系）、地球資源環境学科、数理・情報システム学科（情報系）、機械・電気電子工学科、建築・生産設計工学科（機械加工システム学コース）

基礎科目の健康・スポーツ/文化・芸術として修得すべき最低修得単位数2単位、教養育成科目として修得すべき最低修得単位数14単位、及び自由選択Ⅰとして修得すべき最低修得単位数4～10単位（学科により修得すべき単位数が異なる。）については、本学部で修得したものとして、一括認定します。

健康・スポーツ/文化・芸術2単位を除いた基礎科目は、授業内容を審査し、本学部の授業科目と同等と学部長が認めるものについて、個別に認定します。

② 専門教育科目

全学科とも、専門教育科目は、授業内容を審査し、本学部の授業科目と同等と学部長が認めるものについて、個別に認定します。

なお、単位の修得状況によっては、認定し得る単位が限定される場合があり、第3年次に編入学しても、2年間で卒業できないこともあります。

18 学生支援制度

(1) 入学料免除制度

入学前1年以内において、入学する方の学資を主として負担している方(以下「学資負担者」という。)が死亡し、又は入学する方若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたこと等で、入学料の支払いが著しく困難であると認められる方については、選考の上、入学料の全額又は半額を免除することがあります。

(2) 入学料徴収猶予制度

次に掲げる「徴収猶予の基準」のいずれかに該当する方については、選考の上、入学料の徴収を猶予することがあります。

○徴収猶予の基準

① 経済的理由により支払期限までに入学料の支払いが困難であり、かつ、学業優秀と認められる方

- ② 入学前1年以内において、学資負担者が死亡し、又は入学する方若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたこと等により、支払期限までに入学料の支払いが困難であると認められる方

(3) 授業料免除制度

次に掲げる「免除の基準」のいずれかに該当する方については、選考の上、授業料の全額又は半額を免除することがあります。

○免除の基準

- ① 経済的理由により授業料の支払いが困難であり、かつ、学業優秀と認められる方
② 入学前1年以内において、学資負担者が死亡し、又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたこと等により、授業料の支払いが著しく困難であると認められる方

【参考】成績優秀者に対する授業料免除制度について

上記の授業料免除に加えて、学習意欲の向上を図ることを目的とした、「学長が特に学業等が優秀であると認めた者」に対する授業料免除制度があります。制度の概要は次のとおりです。

- ① 3年次に編入学された方は、入学後（3年次の1年間）の成績により選考し、4年次の後期分授業料を全額または半額を免除します。（申請する必要はありません。）
② 成績優秀者に決定した学生は、表彰を行います。

(4) 授業料等奨学融資制度

学生が、本学の提携銀行である山陰合同銀行から、当該期の授業料相当額及び入学料相当額の融資を受け（本学及び銀行の審査があります）、卒業後返済する制度で、授業料及び入学料の支払いに困らないよう学生への支援の一つとして設けたもので、制度の概要は次のとおりです。

- ① 在学中は、本学が奨学援助金として利息を負担し、銀行へ支払います。
② 授業料免除申請をしている方は授業料相当額の融資の申請はできません。免除申請の結果が半額免除又は不許可になった場合に申請できます。
③ 入学料相当額の融資の申請は、入学料徴収猶予が許可された方に限ります。
④ 本申請の時期は、前期については、7月上旬を予定しています。後期については、12月上旬を予定しています。
⑤ 日本学生支援機構等の奨学金利用者も申請できます。
⑥ 学生が山陰合同銀行と融資契約を締結します。

(5) 奨学金制度

毎年、多くの学生が、日本学生支援機構、地方公共団体、民間の事業団体による育英制度の奨学金の貸与を受けています。

地方公共団体の奨学金については、都道府県市区町村の教育委員会で取り扱っているケースも多いので、直接、出身地等の教育委員会へ照会してください。

(6) 学生教育研究災害傷害保険制度

この保険は、インターンシップ・介護体験活動・教育実習等を含む学生の正課中、学校行事中、課外活動中及び学校施設内などでの教育研究活動中の急激かつ偶然な外来の事故により身体に傷害を負った場合に保険金が支払われるものです。

また、同じく上記活動中に他人にケガをさせたり、他人の財物の損壊したことにより、法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害について保険金が支払われる学生教育研究賠償責任保険というものもあり、本学では両方への加入をお勧めしています。

(7) 住まい

学生生活に適したアパート・マンション等の斡旋を島根大学生生活協同組合が行っています。

(8) その他

(1)～(7)に関する詳細については、入学確約書を提出した者に対して送付する「入学案内」でお知らせします。

学部案内

1 学部の内容

理念

21世紀の知識基盤社会においては、新たな知の創出と知の活用による更なる科学技術の発展が求められています。総合理工学部は、理学、工学の教育・研究を基盤に、従来の枠組みを超えた分野間の有機的な連携を図り、新たな視点に立った理工融合型の教育・研究を推進します。これにより総合的視野をもった創造力豊かな人材の育成を目指すと共に、新たな科学技術の開拓を通して社会の持続的発展に寄与します。

目標

1. 専門的基礎学力と総合的視野をもった活力ある人材の育成
 - ・ 理工学の専門的基礎教育を展開する中で、基礎力、応用力と共に理工融合的視点（理学的発見あるいは課題を工学的視点から捉え、工学的課題を理学的視点から捉えること）を育て、総合的視野をもった創造力豊かな人材を育成します。
 - ・ 変革する社会の中で自立して活動できる判断力、コミュニケーション能力、国際的視野をもった人材を育成します。
 - ・ 豊かな教養や倫理観をもち、人類社会や地球環境とのかかわりについて総合的に考え判断できる能力をもった人材を育成します。
2. 特色ある国際的水準の研究の推進
理工学の先端的・学際的研究、従来の枠組みを超えた連携による理工融合型研究、地域課題に立脚した研究など、特色ある研究を高度に推進し、教育に資します。
3. 国際交流の推進
研究成果の世界への発信、国際学術交流、国際共同研究、留学生の受入れ等を積極的に図り、国際的に魅力ある教育研究を推進します。
4. 地域をはじめとする社会貢献の推進
社会の中核となる有為な人材を社会に送り出すと共に、研究成果の社会への還元・普及を図ります。特に地域の活性化のために、地域社会との連携に努めます。
5. 効率的・効果的で透明性のある学部運営の推進
上記の目的を達成するために、効率的・効果的で活力ある学部運営を目指すと共に、積極的に情報を公開し、透明性のある学部運営を目指します。

本学部は、次に示す5学科からなります。また、大学院は総合理工学研究科博士前期課程（標準修業年限2年、入学定員124名）及び博士後期課程（標準修業年限3年、入学定員12名）として学生を受け入れています。

編入学者受入方針

- ・ 本学部の理念・目標に基づき、基礎となる理学、工学及び新たな視点による理工融合の専門分野の学修に熱意を持ち積極的に取組める人を求めます。
- ・ 本学部で修得する学識と良識を基に、新たな科学技術の開拓、国際交流の推進、よりよい社会の実現に貢献する意欲を持つ人を求めます。
- ・ 上記の受入方針の下に、多様な入試を行い、多様な能力を持つ人を受け入れます。
- ・ 3年次編入学者の募集では、在籍する又は在籍した教育機関における学修内容を、本学部の理念・目標に従ってさらに発展・深化させたいという意欲を持つ人を求めます。また、志願する学科の入学受入方針に従い、編入学後の教育を受けるのにふさわしい専門分野の基礎学力を備えた人を受け入れます。

物質科学科

本学科は、物理系の理学及び工学分野、化学系の理学及び工学分野から構成されています。それぞれの学問分野での教育・研究が行われると同時に、物理と化学、理学と工学の交流により教育・研究の新たな展開が図られています。

・ 編入学者受入方針

自然現象や種々の物質に関心があり、物事を根本的なところから探求・理解することを志向する人、このために特に物理学あるいは化学をより深く学びたい人、物質の仕組みを微視的な立場から明らかにすること、新しい機能をもつ物質を創ったり調べたりすること、またそれらの応用技術に興味のある

る人を求めています。

また、専門科目を3年次から履修するために、物理系コースでは、大学2年次に相当する数学及び物理学の基礎的な知識と応用力、化学系コースでは、大学2年次に相当する化学の基礎的な知識と応用力及び英語の基礎学力が必要です。

・編入学後の教育

教育はコース制で行われます。物理系コースと化学系コース（それぞれ65名程度）からなり、化学系ではさらに機能材料化学コースと基礎化学コースに分かれます。物理系コースと化学系の機能材料化学コースは、いずれも技術者教育プログラム（JABEE教育プログラム）の認定基準に対応した教育プログラムです。どちらのJABEE教育プログラムも、平成19年度に認定されました。一方、基礎化学コースは、非JABEE教育プログラムです。化学系の履修コースの決定は、編入学時のコース希望調査アンケートに基づき行います。コースを履修するには、基礎物質化学実験を含めて専門基礎教育科目を10単位以上取得する（単位認定される）ことが必要です。

物理系コースでは、物理学の基礎を習熟すると共に、原子・分子レベルから物質の構造を調べたり、新しい性質を示す物質を創成したりするための理学的・工学的応用能力を持った研究者、技術者の育成をめざす教育を行います。機能材料化学コースでは、化学の基礎的及び専門的知識を基に自主的に仕事を立案実行できる、幅広い知識と実践力を修得した国際的に通用する化学技術者の育成を目的とする教育を行います。基礎化学コースでは、化学の基礎から応用に及ぶバランスの取れた幅広い知識を基に、様々な分野で活躍できる人材の育成を目的とする教育を行います。

本学科では講義以外に演習・セミナー・実験を重視しており、それらを通して分析能力・論理的思考能力を養います。また、卒業研究では、具体的な研究テーマを実践する中で、より深い専門知識と同時に、自ら課題を発見し、問題を解決する素養を身に付けます。

・卒業後の進路

卒業後は、物理学あるいは化学をベースとして物質科学に関する幅広い専門知識とその展開能力を活かせる職場での活躍が期待できます。特に大学院修了者は、物事の本質の解明・新時代の技術の展開に携わる高度専門職業人あるいは研究者として職を得ることが可能です。具体的には、物理学及び化学の教員、化学関連企業、電気・電子半導体・情報通信機器など広範囲の産業機器・新素材メーカー、官公庁、大学院への進学などへの進路が開かれています。

地球資源環境学科

本学科は、地球物質システム学、環境地質学、自然災害工学の3分野からなり、地質学・地球科学から社会のニーズに即した工学的分野にまたがる広い視野に基づいて、物事を考える能力の修得を学習・教育目標とした技術者教育プログラム（JABEE教育プログラム）を実施しており、国際的に通用する人材の育成を目指して教育・研究する学科です。地球物質システム学分野では地球岩石圏を構成する物質（岩石・鉱物・鉱石）の性質及びその相互作用、循環システム、運動学、また、金属鉱床・石油などの地球資源の濃集過程の解明と利用、環境地質学分野では、地層の形成に関する問題、地球環境と生物の変遷、現在起きている環境変化の地球史的把握と予測、自然環境の計測・評価・保全技術、自然災害工学分野では地盤・岩盤の諸性質の理解、地下水流動、地盤災害や火山災害などの自然災害発生メカニズムの解明と予測、防災工法など、についての教育・研究を行います。

・編入学者受入方針

地球の生い立ちや岩石・鉱物・化石に興味があり、鉱床・石油等の形成過程と利用、過去から現在の地球環境の移り変わり、自然災害発生のメカニズムと防災手段などについて学び、これらの知識と経験を将来社会で役立てたいという意欲のある学生を求めています。

専門科目を3年次から履修するためには、地球科学に関する経験・体験と強い学習意欲、大学2年次生に相当する地学（気象と天文を除く）及び英語の学力が必要です。

このような方針に基づき、特に地球物質科学・環境地質学・自然災害工学などに対する秀でた理解力と科学的思考能力を備え、かつ積極的に学修しようとする者を受け入れます。

・編入学後の教育

本学科では充実した最新の研究設備を駆使して教育・研究を行っています。また、国内・海外の地質見学をはじめ、実験・実習（野外実習を含む）を重視したカリキュラムを組んでいます。卒業論文研究を通じて、科学的観察力、思考力、判断力をもった、自主的・創造的な人材を育成します。

・卒業後の進路

地質・建設・土木・環境コンサルタント企業、金属・非金属・セラミックスなど資源・エネルギー関連企業、国・地方公務員、博物館学芸員、教員、また大学院への進学などの道が開けており、これまでに多数の卒業生が社会で活躍しています。

数理・情報システム学科

本学科は、数理構造コースと数理解析コースの数理系の2コース、及び情報システムコースと情報工学コースの情報系の2コースから構成されています。数理科学と情報科学・情報工学の有機的関連性や共通性を教育の基盤として、今日の両学問の体系と特色を教育・研究しています。幅広い知識と視野、豊かな着想、柔軟な思考力、適切な判断力を持ち合わせた国際性豊かな専門技術者や教育を含む諸分野で指導的役割を果たせる人材を育成します。特に、両系の特色・独自性に基づいて、数理系では構造論的抽象数学や諸現象の数理科学的解析のための現代数学を、情報系では技術者教育プログラム（J A B E E教育プログラム）を踏まえて物（ハードウェア・ソフトウェア）作りとこれを支える種々の体系的方法を教育・研究しています。

・編入学者受入方針

数学や情報工学の学問・技術を生かして、自然や社会のさまざまな現象を探求し、より良い社会を創りたいと思っている学生、これからの高度情報化社会をリードする技術者として活躍したいと考えている学生、それに、将来は数学や情報の教員になりたい学生を求めています。

〈数理系コース〉 数学に関して、基礎的知識と学力及び適性と熱意を持つ学生を求めます。

専門科目を3年次から履修するためには、線形代数、微積分及び集合論に関する基礎的知識と学力が必要です。

このような方針に基づき、一般入試では大学2年次生に相当する数学の学力を備えた方を、推薦入試では成績が上位で、特に数学に対する熱意・情熱を持つ方を受け入れます。

〈情報系コース〉 情報工学に関する基礎知識と学力を持ち、情報工学に興味と熱意のある学生を求めます。

専門科目を3年次から履修するためには、初歩的なプログラミング能力、情報数学の基礎学力、コンピュータやネットワークに関する基礎知識を備えている必要があります。

このような方針に基づき、一般入試では大学2年次の情報系学生に相当する学力を備えた方を、推薦入試では成績が上位で、特に情報工学に熱意を持つ方を受け入れます。

・編入学後の教育

数学と情報科学について幅広く、又は集中して学びます。数学と情報の両系の特徴を活かし、論理的な思考能力や問題の発見・分析・解決能力、柔軟な発想力を養う教育を行います。

日本技術者教育認定機構（J A B E E）の定める認定期間内に情報システムコースを修了した学生は、技術士第一次試験が免除されます。

・卒業後の進路

ソフトウェア関連企業を含む情報通信系企業や、幅広く、製造・流通・金融・保険・教育関連などの企業、数学及び情報の教員、公務員、又は大学院への進学などの進路が開かれています。

機械・電気電子工学科

本学科は、機械工学、電気工学及び電子工学の3分野からなり、それらの分野にまたがる広い視野と知識の修得を学習・教育目標とし、国際的に通用する技術者の育成を目指しています。

「機械工学分野」では、機械システムの高機能化を図るため、制御システムとメカトロニクスシステムの設計開発、機械要素及び機械システム設計、機械の振動解析、工業材料の最適設計、「電気工学分野」では、コンピュータを用いた知的計測、電磁波によるリモートセンシング、ヒューマンインターフェース計測、デジタルホログラフィなどの計測の基礎から応用、電力の発生、伝送、変換などに関する電気エネルギー制御システム、情報・放送・光通信システムとそれらの基礎となる回路とシステム、「電子工学分野」では、各種半導体の結晶成長、結晶の電氣的・光学的性質や構造の解明、電子・光デバイスへの応用、及び集積回路ナノデバイスに関する教育・研究を行います。

詳細については、学科ホームページ<http://www.ecs.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

・編入学者受入方針

本学科では、教育目標として「機械から電気・電子工学に至る幅広い基礎知識を持ち、課題解決能力や自律的学習能力、説明・説得力を備え、設計・製作能力を有し、高い倫理観をもって社会に貢献できる技術者を育成する」ことを掲げています。そのため、これらの教育目標が達成できるような機械、電気・電子工学の各分野に対する探求心が旺盛で学修に熱意のある人を求めています。

専門科目を3年次から履修するためには、数学に関する基礎学力、機械、電気及び電子工学のうち少なくとも一つの専門分野に関する基礎的な知識とそれを応用する思考力が必要です。

このような方針に基づき、大学2年次生に相当する数学の学力を備えた人を受け入れます。

・編入学後の教育

本学科では、3分野間の強い連携のもとに、2年次において講座共通の核心的基礎科目をコア科目と

して教育を行っています。また、3年次からは、Aコース（制御、力学、機械計測）、Bコース（エネルギー、情報通信、電子計測）及びCコース（電子デバイス・材料・物性）の3つの教育コースから一つを選択するカリキュラム構成で、専門性を高める教育を行っています。

3年次に編入学した学生諸君は、コア科目を履修するとともに、Aコース、Bコース又はCコースから一つを選択して専門分野を学修します。また、3年次までの学生実験では、応用力や記述・発表能力を修得します。さらに、4年次の卒業研究では、指導教員による個別指導を通して実践的能力や創造力を身につけます。（ただし、単位認定を受けた科目については履修する必要はありません。）

・卒業後の進路

卒業後は、自動車、精密機械、重電機、電力、OA機器、家電、AV機器、コンピュータ及び情報処理関連の企業や国家・地方公務員など多方面への就職が可能です。さらに大学院へ進学し、より深い専門知識の修得と高度な最先端の研究を目指すこともできます。

詳細については、学科ホームページ<http://www.ecs.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

建築・生産設計工学科

本学科では、木材、金属、プラスチック、コンクリートを始めとする各種材料と人間の生活との関わりを追求することにより、特に人間に対して快適な住環境を形成するための各種材料の開発を行い、また地球の環境に優しいエコマテリアルを目的とした材料変換技術の確立、さらに低質原料や現在廃棄されている原材料の有効利用を図るための再資源化・再利用化のための機械加工技術を追求しています。本学科で行っている研究・教育は、大きく分けると材料工学、建築学、機械工学を総合化した内容になっています。学科の構成は材料工学と機械加工システム学の2大講座に分けられ、材料工学講座では、都市計画から建築設計、耐震構造まで幅広い建築を学んだり、木質材料を中心とした材料の基礎的な性質を追求し、高度利用技術に結び付ける研究・教育を行っています。機械加工システム学講座では、材料や製品の効率的な加工・生産から、再利用、廃棄に至るまでのプロセス技術を追求しています。

学生の教育は、材料工学コース、機械加工システム学コース、材料プロセス工学コースの3つからなり、材料工学コース、機械加工システム学コースは、上記講座に対応しています。修得単位の内容に応じて、建築士の受験資格も得られるようにしています。材料プロセス工学コースは、材料構造物・製品設計やものづくり、環境に関する幅広い科学知識を駆使して物事を考える能力と実践力の修得を教育目標とした技術者教育プログラムを実践し、国際的に通用する技術士の育成を目指しています。

・編入学者受入方針

建築・機械加工・材料分野における企画・設計・生産・維持管理・廃棄などの一連の工程において、人間に対して快適な住環境を形成するための各種材料の開発を行い、また地球の環境にやさしいエコマテリアルを目的とした材料変換技術を確立し、資源の有効利用と環境保全に配慮し、健全な経済社会システムを創造したいという意欲を持つ人を求めます。

専門科目を3年次から履修するためには、大学2年次生に相当する基礎学力、専攻する専門分野に対する基礎知識及び取組意欲が必要です。

このような方針に基づき、一般入試では、自然科学（数学、物理、化学、生物）等の基礎学力を備えた人を、推薦入試では、学業成績（理数系）及び人物が優秀で、上記分野に対して熱意をもって取り組める人を受け入れます。

・編入学後の教育

健康で快適な生活と、資源循環型社会の実現のために、「どのような材料をつくるか、どこにどのような材料を使うか」という材料設計、「どのようにしてものを生産するか、どのようにして資源の循環や最終処分を行うか」というプロセス設計、「建築空間をつくる、機械製品をつくる」という製品設計、この3つの課題の全般に対応できる、広い知識と独創性を兼ね備えた人材の育成を目指した教育を行います。

・卒業後の進路

他大学の建築学科と同様な就職先と、木質系材料、金属材料、高分子材料を主体とした材料及び材料加工メーカー、機械・電子機器メーカー、さらに、資源再生に関する環境関係の企業や、官公庁、公共団体。

2 総合理工学部の卒業要件

科目区分		最低修得単位数	備考
基礎科目	外国語	英語	4
		初修	4
	健康・スポーツ / 文化・芸術	2	健康スポーツ, 芸術文化 I のいずれかを選択
	情報科学	2	
教養育成科目		14	
自由選択科目 I		4~10	学科毎に単位数を定める。
小計		30~36	
専門教育科目		82~88	学科毎に専門基礎, 専門必修, 専門選択, 専門自由を指定する。
自由選択科目 II		6	
合計		124	

備考

- 1 自由選択科目 I は, 基礎科目, 教養育成科目の中から選択して履修します。
- 2 自由選択科目 II は, 基礎科目, 教養育成科目及び専門教育科目の中から選択して履修します。

松江キャンパス案内図

(1) 位置図



(2) 交通案内

鉄道	JR新幹線	新大阪ー岡山 (約45分) 名古屋ー岡山 (約1時間40分) 東京ー岡山 (約3時間25分) 博多ー岡山 (約1時間45分) 博多ー新山口 (約35分)	JR在来線	岡山ー松江 (約2時間35分) 新山口ー松江 (約3時間50分)
	航空路線	大阪ー出雲空港 (約1時間) 名古屋ー出雲空港 (約1時間) 福岡ー出雲空港 (約1時間5分) 東京ー出雲空港 (約1時間20分) 東京ー米子空港 (約1時間20分)	空港連絡バス	出雲空港ーJR松江駅 (約30分) 米子空港ーJR松江駅 (約45分)
高速バス	広島 (広島)	ーJR松江駅 (約3時間10分)		
	福山	ーJR松江駅 (約4時間10分)		
	尾道	ーJR松江駅 (約3時間10分)		
	岡山	ーJR松江駅 (約3時間)		
	神戸 (三宮)	ーJR松江駅 (約4時間30分)		
	大阪 (梅田)	ーJR松江駅 (約4時間40分)		
	京都	ーJR松江駅 (約5時間)		
	福岡	ーJR松江駅 (約8時間)		
	名古屋	ーJR松江駅 (約9時間)		
	東京 (渋谷)	ーJR松江駅 (約10時間25分)		

JR松江駅から島根大学松江キャンパスへの路線バス

- ①市営バス：北循環線内回りへ乗車～「島根大学前」で下車 (所要時間約15分)
- ②市営バス：島根大学・川津行きへ乗車～「島根大学前」で下車 (所要時間約20分)
- ③一畑バス：美保関ターミナル又はマリングート行きへ乗車～「島根大学前」で下車 (所要時間約20分)

総合理工学部の各学科（系）でホームページを公開していますので、こちらを参考にしてください。URLは、次のとおりです。

総合理工学部	http://shimane-riko.jp/
物質科学科	
物理系	http://www.phys.shimane-u.ac.jp/
化学系	http://www.chem.shimane-u.ac.jp/
地球資源環境学科	http://www.geo.shimane-u.ac.jp/
数理・情報システム学科	
数理系	http://www.math.shimane-u.ac.jp/
情報系	http://www.cis.shimane-u.ac.jp/
機械・電気電子工学科	http://www.ecs.shimane-u.ac.jp/
建築・生産設計工学科	http://kenchiku-seisan.jp/

< 入学試験に関する問合せ先 >

島根大学自然科学系第一課
(総合理工学部担当)

〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060

電 話 0852-32-6835

電子メール sad-nyushi03@office.shimane-u.ac.jp

URL <http://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>